

報 会 全国文化財壁技術保存会

第7号

平成十六(二〇〇四)年八月十日発行
編集 全国文化財壁技術保存会
発行 京都府京都市右京区京極
事務局 午塚町五八一
TEL (〇七五) 三三三二七〇七

選定保存技術とは

昭和五十年の文化財保護法改正により、文化財保存のため欠くことのできない伝統的な技術や技能について、国は選定保存技術として選定し、その保持者及び保存団体を認定することになりました。この選定保存技術保護のため、保持者、保存団体等が行う技術の練磨、伝承者養成等の事業について必要な援助を行います。これにより平成十四年七月、保存会が国から保存団体として認定を受けました。本号では、この制度のもう一方の柱となっています選定保存技術保持者について、認定を受け

られている二人を紹介します。

奥井五十吉 (保存会会長)

昭和九年兄に師事し、左官技術の習得に努められ、昭和十三年に独立されました。昭和三十一年に重文「正蓮寺大日堂」修理を契機に、国宝「春日大社本社本殿」国宝「法隆寺金堂」重要文化財「室生寺御影堂」重要文化財「中村家住宅」など、数多くの国宝・重要文化財の左官工事に従事され、優れた手腕を発揮されるとともに、各時代の壁塗り技法の調査研究に努められています。平成八年には黄綬褒章を受章され、平成十年に国より「左官(漆喰塗)」で保持者の認定を受けられました。また、

保存会前身の「文化財壁保存研究会」の創設にも尽力されました。現在、本会の会長として重責を果たされています。



佐藤治男 (保存会幹事)

昭和十六年父に師事し、左官技術の研鑽に努められ、昭和三十一年に独立されました。国宝「平等院鳳堂」国宝「西本願寺白書院」国宝「宇治上神社本殿」重要文化財「仁和寺飛濤亭」な

ど数多くの国宝・重要文化財の左官修理に従事され、土壁に精通するのみではなく土間叩きや竈の築造など、土を原料とする様々な工事に卓越した技量を発揮されています。平成九年には、黄綬褒章を受章されています。平成十三年に国より「左官(古式京壁)」で保持者の認定を受けられました。また、保存会前身の「文化財壁保存研究会」の創設にも尽力されました。現在、保存会幹事として、会の運営や後進の指導、伝統工法の耐震性の検証など、伝統技術の普及啓蒙に幅広く活躍されています。



十二期(平成十六年度) 総会を開く

平成十六年五月二二日に、京都市で、第十二期定期総会を開催しました。

来賓として、全国国宝重要文化財所有者連盟事務局長の後藤佐雅夫氏、京都大学の西澤英和先生にご出席をいただきました。

平成十五年度の事業報告及び収支報告、十六年度の事業計画案及び収支予算案の審議を行い、原案通り承認いたしました。本年度の主な事業は以下の通りです。保存会の法人化に向けての準備に着手します。伝承者養成研修会は、平成十四年度基礎講座修了生七名を対象に、十二日間行います。登録文化財建造物等の修理現場での研修も計画します。また、夏休み子供壁塗り体験会や左官研修ビデオ製作への協力も行います。

夏休み壁塗り子供体験会 (平成十五年度)

この夏休みイベントは、平成十三年度より保存会と姫路市の共催で開催しているものです。

平成十五年度は「姫路城主の紋飾りを作ろう」との企画で開催しました。平成十五年八月三日と二四日の二日間、小・中学生六十名の参加により姫路城三の丸広場で行い、保存会会員が指導をしました。



左官(日本壁)選定保存 技術研修 基礎講座

平成十四年度から初めました伝承者養成技術研修の四期生の基礎講座研修を、平成十五年十一月十日から十五日と平成十六年一月十九日から二月二四日の十二日間行いました。

研修生は経験三年以上・満四十歳までの者とし、清水達郎、廣田直人、山脇一夫、伊佐次卓也、久江大貴、高屋忠光、香取寛隆の七名が基礎講座研修を終了しました。

研修は姫路市、京都市、京都府八幡市で文化財の基礎知識習得講義を行うとともに、姫路市網干の切製造工場、三木の左官鍍の製造所、京都市本願寺大師堂、宇治市萬福寺松隠堂の修理現場視察、八幡市での実技研修を行いました。

基礎コース研修プログラム

	日 時	主 題 ・ 内 容	講 師	会 場
講 義	11月10日	文化財保護法 法の歴史・主旨 文化財建造物 姫路城の修理 保存修理事業 行政の指針	村上 裕道 上田 耕三 武内 正和	姫 路 姫 路 姫 路
	11月11日	文化財建造物 日本建築の歴史	村上 詔一	姫 路
見 学	11月11日	左官（日本壁） 赤穂城復元工事現場	山脇 光弘	赤 穂
	11月12日	左官（日本壁） 鋺の製造	宮谷 邦夫	三 木
		左官（日本壁） 苅の製造	三輪 喜美	網 干
講 義	11月13日	左官（日本壁） 左官の壁	佐藤 治男	京 都
		左官（日本壁） 文化財建造物の現場より	中尾 正治	京 都
		左官（日本壁） 壁の性能	西澤 英和	京 都
実 技	11月14日	左官（日本壁） 下地竹	光橋 仁司	木 津
		左官（日本壁） 壁土	尾崎 良弘	京 都
		左官（日本壁） 壁土	中内 庸司	京 都
	11月15日	左官（日本壁） 技能（竈）	奥井五十吉	奈 良
		左官（日本壁） 技能（版築）法隆寺	奥井五十吉	奈 良
見 学	1 月19日	保存修理現場 本願寺大師堂 保存修理現場 萬福寺松隠堂	京都府文化財保護課 京都府文化財保護課	京 都 宇 治
講 義	1 月20日	文化財建造物 瓦工事の基礎知識	伝統瓦技術保存会	京 都
		文化財建造物 屋根工事の基礎知識	社寺屋根技術保存会	京 都
	1 月21日	文化財建造物 保存修理現場より	後藤佐雅夫	京 都
		左官（日本壁） 大和竈の工程	奥井五十吉	京 都
		文化財建造物 木工事の基礎知識	鈴木 清司	京 都
実 技	1 月22日	実技 下地竹・下地縄	会 員	八 幡
	1 月23日	実技 下地掻き厚壁・薄壁	会 員	八 幡
	1 月24日	実技 左官の道具	会 員	八 幡





運営委員会の開催

保存会の運営をよりの確かつ公正に行うため、平成十五年度に運営委員会の設置を決め、委員の選任を進めてきました。

第一回の運営委員会を平成十六年四月二六日、姫路市立城郭研究室で開催しました。委員は八名で構成しています。

委員長には、京都大学の西澤英和先生を選出し、委員は全文連の後藤佐雅夫氏、文化財建造物保存技術協会の村上訓一氏、兵庫県教育委員会の村上裕博氏、城郭研究室の玉岡路三郎氏、保存会から山脇光弘、佐藤治男、中島正雄です。

審議事項は、研修、法人化、会則改定です。上級者の研修内容については、実技を中心に行う。会の法人化に向けては、最終目標は社団法人とするが、当

面はNPO法人を目指してはどうか。会則の改定は、運営委員会の条文を追加する一部改定に留める。以上の意見をいただきました。今後保存会で検討を行い、実現すべき事柄については取り組んでいくことにしています。

事務局だより

保存会ホームページに会員専用の掲示板を設けています。会員であればどなたでもメッセージや情報を書き込むことができます。情報発信や会員交流に大いに活用ください。なお、掲示内容の削除等が必要な場合はすぐに可能ですので、事務局の上田か梅川までご連絡ください。保存会ホームページアドレス。

<http://www.kabe.jibasan.or.jp/>

ip/

(編集事務局 梅川・上田)